

教えてください、あなたのことを。(11)



埼玉県所沢市 大江 宏さん（亜細亜大学経営学部教授）

Q 差し支えなければ、年齢、出身地を教えてください。

A 1944年4月生まれ。出身地は新潟県阿賀町です。その故郷は、阿賀野川の中流域にあり、合併前の町名は鹿瀬町です。思い出す人もおられるかと思いますが、新潟水俣病の原因工場の昭和电工鹿瀬工場のあった町です。日本合成化学の工場もありました。白濁した排水や酢酸の匂いを想い出します。その昔は、古河市兵衛が足尾銅山開発の前に財を築いた草倉銅山もあったところで、産業公害の原点の一つかもしれません。今は県下の過疎化と高齢化が進んだところです。

Q ごみ問題に関心を持つようになったのは、いつ頃で、どんなきっかけですか？

A 1990年のアースデイを知り、娘と一緒に狭山丘陵のごみ拾いイベントに参加してからでしょうか。地球環境問題がクローズアップされていた時で、グリーン・コンシューマーや環境広告に研究面からも関心を持っていましたので、「足元から行動」しなければと思い、埼玉エコ・リサイクル連絡会の創設に関わりました。

Q 「ごみ・環境ビジョン21」に入会してくださったきっかけを教えてください。

A 地域のごみ関連イベントや市民参加の自治体の会議で貴会の創立時のメンバーの方々と知り合い、すすめられたかと思います。名称もとても良い会だと感じましたよ。

Q ごみ問題に関わること以外に、趣味や生きがいは何ですか？

A 無芸少食のエコ人間ですが（笑）、健康管理が大切なので、月に1、2度テニスをしたり、最近は、やはり月に1度ほどですが、近郊の山歩きに連れて行ってもらったり、で体を動かすようにしています。

Q 特筆すべき近況があれば、教えてください。

A 多摩地域の幾つかの自治体の市民参加の会議に関わってきて、市民と行政・その他との協働をどう創るかが重要だと感じています。例えば、焼却工場にとってシンボリックな煙突の高さでも、100mもあれば59mもありますし、煙突を造りたくてもそこまでいかない0mもあります。十年以上の協働作業になる場合が少なくありませんが、「急がば回れ」と思っています。

またここ2年ほどモンゴルを訪ねて、開発と環境の関わりをウォッチングしています。昨年はゴビ砂漠で行われている世界有数の鉱山開発の現場を見てきました。砂漠にも豊かな生態系があり、その保全は世界の問題です。継続観察の必要性を感じ、しばらくはしっかり見ていこうと思っています。ゴビ砂漠はこのままではゴミ砂漠になってしまいます。

Q ごみかんに期待したこと、あるいは提案したいことをお聞かせください。

A アクティブな会員ではありませんので、貴重な情報を提供していただき、勉強になっています。今後とも実践情報と実践の裏付けとなる「地球思考」の両輪の展開を期待しています。